

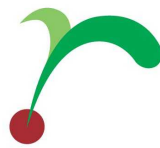


ライズ通信

第4号
2004年 6月発行



NPO法人リヴォルヴ 学校教育研究所



二の宮事務所
〒305-0051 つくば市二の宮4-8-3 1-404
電話/FAX 029(856)8143

ライズ学園 谷田部教室
〒305-0861 つくば市谷田部2983 (アラキヤさん2階)
電話/FAX 029(836)8447
E-mail npo_rise@ybb.ne.jp
ホームページ http://www.rise.gr.jp

ライズ学園日記から

2000年11月、週一回半日だけの活動から始まったライズ学園。最初は静かだった学園にも、今では元気な子ども達の声が響いています。今回は、そんな毎日の活動の様子をお伝えするため、ライズ学園日記の中からその一部をご紹介します。 (文・豊田/学園生うさちゅう君)



2004年4月20日(火)
午後のフリータイム

神社で鬼ごっこを楽しんだ後、川沿いを散歩しました。学園近くの東谷田川は菜の花でいっぱい。モンシロチョウを一度に2匹つかまえて、大喜びでした。



2004年5月10日(金)
追肥と苗植え

トマトとナスの苗植えと追肥をしました。もちろん無農薬。肥料もみんなで作った'ぼかし'。道具の扱いにもすっかり慣れて、トウモロコシの苗がすくすく伸びていました。

2004年4月23日(金)
ミニチュア家づくり

今年度、みんなが熱中している小さな家づくり。写真は高層ビル建築を手がけるK君と平石さん。耐震補強をほどこしています。



2004年5月11日(火)
ライズタイム

今年度から始まったライズタイム。教科の勉強では味わえないことをゲームなどを通して学びます。今日は、近くのグラウンドでのハンカチ落とし。お弁当後、それぞれが休憩をとった後、木を囲んで丸く座りました。ハンカチをそろりと置いて、逃げる逃げる。ドキドキ快晴の午後でした。



2004年4月28日(水)
米ぬか肥料混ぜ

畑にまく肥料を米ぬかと腐葉土で作りました。皆、米ぬかを見るのは初めてみたいで、どんな物が質問をしていました。ひとつ驚いたことは、米ぬかを手で混ぜていたため、肌がすごくスベスベになった事です。小学生の子がスタッフさんに、『米ぬかのパックをすれば』と言っていました。【うさちゅう】



2004年6月9日(水)
算数の授業風景「平均」

小学生の算数で、真剣にパソコン画面を見入る5人組。「平均」を学ぶ授業で何やら面白い調査を実施。「あなたは何歳で結婚したいですか?」10名ほどから回答があり、集計の結果ライズ学園の平均結婚希望年齢は29.9歳でした。

2004年度 第3回定時総会 開催



(総会後の記念撮影)

さる5月23日(日)、つくば市谷田部公民館にて2004年度 第3回定時総会を開催しました。総会では、2003年度の活動報告と決算報告、2004年度の事業計画と予算案等が承認されました。

役員改選では、秋元一浩副理事長が任期満了に伴い退任。後任には中村貴之氏(後列右から2番目)が選任されました。また新たに、龍井昇治氏(前列右から2番目)と、本山裕子氏(同列右から3番目)が理事に就任。秋元氏にはこれからも、学園スタッフとしてご協力をいただきます。

総会後のスタッフミーティングには、ライズ学園の保護者も出席され、学校と保護者、ライズ学園の連携あり方に焦点を当て活発な話し合いが行われました。(文・豊田)

ライズ学園日記はこちらから

<http://www.rise.gr.jp>

リヴォルヴ学校教育研究所のホームページが新しく生まれ変わりました。今回ご紹介したライズ学園日記もご覧いただけます。ぜひ一度、お立ち寄りください。

ゆとりが子どもをダメにする?

がんばれ! だけでは、がんばれない

「自分はダメ。いくら勉強してもおぼえられない。」という子ども達に、私はいつもこんな話をする。

「先生の誕生日は5月9日。でも今度の誕生日までには、みんなはきっと忘れてしまうよね。ところが好きな人の誕生日は、一度聞いたら絶対に忘れなかったりするでしょ。これってどういうことだと思う?

コンピュータはすごいって言う人もいるけど、どうしても人間には勝てないところがまだまだある。その1つが『忘れる』っていうこと。一日の間にもみんなの脳の中には、目や耳を通じてたくさんの情報が入ってくる。それを人間は、覚えておいたほうがいい重要な情報と忘れてもいい情報とに分けていく。一度は短期記憶の引き出しに入れられた情報も、寝ている間に必要なものだけが長期記憶の引き出しにしまわれるんだ。

興味や関心があることはすぐに覚えられけど、いやいや勉強していることはなかなか覚えられないというのは、ここに理由があったんだね。だって君たちはPCゲームの裏技だったり、好きな曲の中に出てくる英語はすぐ覚えたりするでしょ。ということは、君たちはけっして『できない』んじゃないんだ。その気になれば素晴らしい力を発揮する可能性があるんだよ。」

ゆとりか学力か

2004年5月22日の茨城新聞1面トップに、「ゆとりか学力か - 揺れる学校現場」との大見出しが踊った。同紙によれば、遠山敦子前文部科学相は水戸

市内で行った講演の中で、「ゆとり、ゆとり」では日本の未来はない」と発言したという。

「生きる力」を伸ばすことを目的とした「ゆとりの教育」が形ばかりのものとなっている今、その指摘はもっともだと思う。世間では、式といわれるドリル学習がもてはやされている。しかし学力向上対策といわれるものが、単に時計の針を逆戻りさせるようなものであったとしたならば、そこに何が期待できるだろう。ドリルの重要性を否定するつもりは毛頭ない。だが、詰め込み式教育が今日の様々な問題の根底にあることは明らかだ。

「ゆとりvs学力」という考え方は短絡的に過ぎる。子ども達が将来に夢や希望を抱けないとしたならば、どのような対策にも成果を期待することはできないだろう。

総合的な学習の充実を

基礎学力の低下が指摘されている今だからこそ、私は「総合的な学習の時間」の充実を訴えたい。そしてそのためには、地域社会の協力が不可欠である。教師が独力でやる授業には、おのずと限界がある。たとえば環境について学ぼうとするときにも、実際に地域で環境保護活動に取り組む人々の協力が得られたならば、子ども達の学びはどれほど豊かなものになるだろう。そもそも「総合的な学習の時間」創設にあたっては、教師自身の創意工夫とともに、授業にかかわる「情報や資料等が教師に提供される必要がある」とされていた。

より多くの人々が学校教育に参画し、なおかつ質の高い支援を可能とするシステムの構築が急務であると考えます。(文・小野村 哲)

ひらがなれんしゅうちょう Vol.1 を無料配布中

書字に困難があるために学習につまずき、自信を失ってしまう子ども達があります。しかしそんな子ども達も、ちょっとした工夫で文字が書けるようになり、またときには驚くような才能を発揮することさえあります。

リヴォルヴ学校教育研究所では、このたび「もじのかたちをとらえるための：ひらがなれんしゅうちょう」を作成しました。この練習帳は、もともとひらがなの書字に困難がある子ども達のために開発されたものですが、多くの子ども達の練習にも役立てていただけるものと考えています。

皆さんのご意見をうかがって改善を重ねるために、現在、試供版を無料配布中です。ご希望の方は、リヴォルヴ学校教育研究所のホームページをご覧ください。二の宮事務所までお問い合わせください。なお、無料配布は用意した部数がなくなり次第、終了とさせていただきますのでご了承ください。(文・北村)



【本書の特徴】

形の似た文字ごとにグループ化
50音順ではなく、「の」のなかま「め」「ぬ」、「」のなかま「よ」「ほ」など、形の似た文字ごとに練習します。

絵で学ぶ文字の基本形
しっぽの「し」など、文字の基本形を絵の中で印象づけます。絵には方向性を持たせて、「し」が「」にならないよう工夫してあります。

目だけでなく、耳からも
葉っぱが落ちる動きに合わせて、「くるっとまわっての」など、文字の形を言葉にして、リズムに乗せて練習します。

ステップをふんで練習
「い」は「」というように、まずは文字の形をとらえた上で、より整った文字に近づけます。

いばらきマナビィー・ネット



もっと多くの方々に学校教育に参加していただき、子ども達の学びをより豊かなものにしていきたい。私達は、文部科学省委嘱「NPO等と学校教育との連携の在り方についての実践研究」に参加し、地域で活躍する方々と学校とを結びコーディネートに取り組んできました。



GTと授業案を検討する先生方

昨年度は10月からの6ヶ月間で40件、のべ120名の方々に学校を訪問いただきました。

ゲスト・ティーチャー(GT)と先生方の協働で行われる授業の中で、子ども達の目はきらきらと輝いていました。福祉マップ作りの授業では、「できるだけ段差のない街づくり」という子ども達の意見に対して、実際に車椅子を利用されているGTからの「目の不自由な方には、歩道と車道の間段差があった方がよい場合もある。それぞれの立場からの街づくりを考えることは、クラスの中で一人一人を大切にすることと同じ」というお話が心に残りました。ある先生からは、「工夫をすれば、子ども達はこんなにも積極的になる。今回の授業を通じて、なぜ自分は教師を目指したのかを思い出すことができました」という嬉しい感想も聞かせていただきました。(文・岩城)

H15年度 ゲスト・ティーチャー訪問状況

訪問日	分野・内容	学校種別
1	10/15~24 総合 竹炭細工づくり	小学校
2	10/25 学校行事 和太鼓演奏・児童との合同演奏	小学校
3	11/14 美術 草木染め体験	中学校
4	11/17 工作 造形遊び	小学校
5	11/19 生活(環境) ネイチャーゲーム「秋の葉について」	小学校
6	11/25 工作 芸術館タワー「展開図からタワーを作ろう」	小学校
7	11/25 工作 紙飛行機「いろいろな形の飛行機を作ろう」	小学校
8	11/25 工作 造形遊び「ごちそうを作ろう」	小学校
9	11/25 工作 造形「小麦粉でヒマラヤを作ろう」	小学校
10	11/25 工作 写真たて「ダンボール紙で作ろう」	小学校
11	11/25 算数 算数指導「4種類の計算方法指導」	小学校
12	11/26 総合 福祉マップの作成	中学校
13	11/26 総合 活動内容・募金活動のやり方について	中学校
14	11/28 総合 講話「弁護士の仕事」	中学校
15	11/28 総合 講話「青年海外協力隊の仕事」	中学校
16	12/2 体育 縄跳びの指導	小学校
17	12/3 総合 講話「盲導犬について・ふれあい体験」	小学校
18	12/5 体育 跳び箱・マット運動の指導	小学校
19	12/12 生活 スタンプを作って年賀状作成	小学校
20	12/17 理科 化石と地層について	小学校
21	1/19 国語 カーテンシアター「7つのお話の読み聞かせ」	小学校
22	1/23 理科 天体についての実験・講話	小学校
23	1/27 音楽 雅楽鑑賞・唱歌体験	中学校
24	1/29 保健 タバコの害について	小学校
25	2/3 体育 サッカーについての実践指導	小学校
26	2/3 クラブ活動 手話での会話・体験	小学校
27	2/12 体育 ソーラン節の踊り方	小学校
28	2/13 社会(総合) 森林保全について	小学校
29	2/17 総合 タイの暮らしについて・JCVの活動について	小学校
30	2/17 クラブ活動 手話での会話・体験	小学校
31	2/20 国語(総合) 働く動物「盲導犬について」	小学校
32	2/20 国語(総合) アイマスク体験	小学校
33	2/25 社会 結城紬「糸取り・糸あげ・機織りの体験」	小学校
34	2/27 総合 「ほしいもの」と「必要なもの」について	小学校
35	3/2 理科 磁石・電気を使った実験	小学校
36	3/3 国語 俳句の魅力と実践	中学校
37	3/3 総合 「元気ってどんなこと？」について	小学校
38	3/5 総合 地雷について	小学校
39	3/11 総合 世界の子どもと予防接種(もし大統領だったら)	小学校
40	3/12 総合 魔法の水(ORS:経口補水塩)について	小学校

編集後記

はっきりしない天気が続いていますが、ライズ学園の子ども達は天気に恵まれています。農作業を始めようとすると雨がやみ、終わると降りだすという具合です。「きっとみんなの日頃の行いがいいから?」「雨男の さん(学生スタッフ)が卒業したからだよ」などと意見はさまざま。筑波大学で農業を学ぶ学生スタッフが加わり、今年はたくさんの収穫が期待できそうです。

ロゴもひらがな練習帳も、スタッフが力を合わせて作ったものばかり。こうしてみると、リヴォルヴは本当に出会いに恵まれているなど、感謝でいっぱいの日々です。(文・岩城)

つくば市から補助金

ライズ学園の活動に対して、つくば市からの補助金(280万円)が決定しました。市では平成14年度予算より補助金制度を見直し、第三者機関が審査する公募補助金制度を導入しています。今回の補助金は、この公募補助金制度によるものです。

ライズ学園はこれまで、トヨタ財団、社会福祉・医療事業団、ルーセント・テクノロジーからの助成金を得て、その活動を続けてきました。しかし、地域立学校を目指す私達にとって、地元のつくば市にその活動を評価していただいたことは、一層の喜びでもあります。

活動全体に必要な経費からすればその額は十分とは言えませんが、貴重な予算を割いていただいた補助金を有効に活用させていただきたいと思えます。また、これまでご支援をいただいた皆さまには心からのお礼を申し上げますと、今後とも、ご指導、ご支援のほどお願い申し上げます。(文・小野村)

新しいロゴができました

当法人のロゴマークができました。茶色い丸は地域の輪を、リヴォルヴのrを形取った緑色の部分は、地域社会の中に芽吹く若芽を表現しています。デザイン担当は、ライズ学園で絵画・造形教室を担当いただいている平石さん。「ひらがなれんしゅうちょう」の表紙デザインもお願いしています。

リヴォルヴという名称には、「滞らず、新しい時代に対応していく」という意味合いが込められています。いつまでも新鮮な気持ちを失わずに、一層充実した活動を心がけたいと思えます。(文・小野村)

スタッフのつぼやき



4月につくばに引っ越してくるまで、週一回片道3時間、電車を乗り継いでライズ学園に通っていました。「どうしてそこまでするの?」の聞かれたこともありましたが、たしかにきっかけとなる出来事はあったわけですが、通い初めて、気がついたら月日が流れていたというのが正直な感想です。

ひょっとしたらこの感覚は私だけではなく、子ども達も持っているのかもしれませんが。毎日学園にやってきて、そこで勉強をしたり、笑ったりとごくあたりまえの日常生活を過ごしています。性格も年齢も異なる他者と過ごす中で、嫌なことや苛立つこと、悩むこと、不安に思うこともあるでしょう。でも、それも大切なことだと思います。ただ単に楽しい時間を過ごす場ではなく、いろいろな思いを感じて自分で考えていくこと、いける関係がライズ学園にはあるのではないのでしょうか。私が通い続けた理由もそこにあるのかもしれませんが。

4月からは常勤スタッフとして勤務することになり、以前よりも子ども達と接する機会が増えました。今まで見えなかった、気づけなかった思いを感じて、自分なりに考えることも多くなりました。考えながら、悩みながら、かつ楽しみながら月日が流れていくようなそんな予感がしています。これからもよろしくお願ひします。

ライズ学園スタッフ 北村 直子(写真・学園生コッティ君)

